二人のバガ娘

むがし、むがし、あったけど。ジット(ずっと)山の村さ、ビチどガチっでぇシャベル(いう)バガ娘もってるオド(父親)とカガァ(母親)が、百姓やって暮してだど。ある日、酒しらべの役人クルドッテ(やって来るというの

で)、田がらオドがハヒェデ(走って)来て、「こら、二人来で手伝え。エマ(今)梁がら酒がめおろすたえに、かめのケッチ(尻)つかめ」どシャベッテ(いって)、天井裏さつくっておいだドブログのかめどご縄さしばって、そろそろっど下さオドシテ(おろして)、娘どさ「しっかりつかめど。ちゃんとケッチつかんでらが。もっと力(ちから)へデ(入れて)ちゃんとつかめ。えーが」とオド声がげだきゃ。「エド(いいよ)。ビン(しっかり)ど力へデ、ツカンディラタエニ(つかんでいるから)」とシャベルもだから、オド、縄離したとだんに、「ドガン、ガバン」と、オッキオド(大きい音)たでで酒ガメ割えでしまったど。オド、びっくりしで下サおりでいってみだきゃ、なんと二人のバガ娘、しゃがんだまま自分のケッチ、ビンど力へデつかんで、目玉白黒さひでえだど。オドはあぎれてしまっておごるもさえねぇがったど。

バンゲ(夕方)なってカガァ二人のバガ娘さ、「こらビッチ・ガッチ、ママナベ(飯鍋)かげでるたえに、火どこ見でろ」てシャベッテ、川さボド(ふだん着)洗いに行ったど。しばらぐたったきゃ、ママナベ、「ビチ・ガツ・ビチ・ガツ」ど煮だってきたど。シタキャ(そうしたら)、「ビチ」てぇ(という)音さビッチが「ああい」。「ガチ」てぇ音さガッチが「ああい」ど返事したど。そのうち(そのうち)ビチ・ガチ・ビチ・ガチど、鍋の音さ二人のバガ娘「ああい」「ああい」と返事ばりしてで、クッタクタにツカエデ(つかれて)しまったど。二人のバガ娘しまいにハラタデデ(おこって)、火コどんどんたいでしまったど。シタキャ鍋のママ真黒にコゲチデ(コゲになって)しまったど。カガァキャッテ(帰って)みだきゃこの始末で、二人のバガさあぎれでしまって、おごるやず忘えで立ってだど。ドットハライ。